



平成28年8月30日
国立研究開発法人
森林総合研究所東北支所

地域再生シンポジウム

「持続的な広葉樹利用による地域再生～森林生態系を保全しながら～」

開催のご案内

ポイント

- ・持続的な広葉樹材の利用による地域再生を図るため、山形県や新潟県での地域の地道な取組を紹介しながら、私たちが何をしなければならないかを考える地域再生シンポジウムを、山形県で開催します。
- ・9月29日（木）シンポジウム　30日（金）現地検討会

概要

国立研究開発法人森林総合研究所東北支所は、東北大学大学院農学研究科（主催）及び置賜林業推進協議会と共催で、地域再生シンポジウムを下記のとおり開催します。

記

- 日時 平成28年9月29日（木）～30日（金）
- 場所 シンポジウム：南陽市文化会館、現地検討会：米沢市・川西町・小国町
- 内容
 - 講演
 - ①「林業・林産業は生態系を保全しながら一種多様性の必然性と機能性・経済性」
講師：東北大学大学院農学研究科 教授 清和研二 氏
 - ②「川上～川下の連携で、かつての薪炭ブナ林を用材として活用する試み」
講師：新潟大学大学院教授 紙谷智彦 氏
 - ③「置賜地域の広葉樹資源の現状とその利用状況について」
講師：置賜総合支庁森林整備課長 佐藤恒治 氏
 - (2) ワークショップ 地域の取組みを聞いて連携を考える
 - (3) 現地検討会 米沢市・川西町・小国町
- 参加者 森林・林業関係者及び一般 約100名

問い合わせ先など

国立研究開発法人森林総合研究所東北支所長 駒木貴彰
広報担当者：森林総合研究所東北支所 産学官民連携推進調整監 田端雅進
問い合わせ先：森林総合研究所東北支所 地域連携推進室

Tel : 019-648-3930 Fax : 019-641-6747



本資料は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県政記者クラブに配付していません。

背景・経緯

林業・林産業界では、戦後造成され、収穫可能となってきた針葉樹人工林の利用の在り方が様々な角度から議論されるとともに、利用拡大に向けた取組みが進められています。

一方、東北地方は広葉樹資源が特に豊富であり、用材や家具材等として需要に応じてきた経緯があります。

広葉樹資源は天然生林が多く、多様な樹種や用途があり、利用方法によっては地域再生の視点から大きな可能性が期待できるものと考えられています。

そこで、持続的な広葉樹材の利用による地域再生を図るため、山形県や新潟県での地域の地道な取組みを紹介しながら、私たちが何をしなければならないかを考えるシンポジウムを、山形県内で最も広葉樹資源が豊富な置賜の地で開催します。